（様式３）

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	大阪府	市町村名		大学名	
派遣日	令和２年９月 17 日（木曜日）　14：00～17：00				
実施方法	派遣　／　遠隔				
派遣場所	大阪府教育センター				
アドバイザー氏名	櫻井 千穂				
相談者	・市町村立小中学校日本語指導対応教員 ・市町村教育委員会日本語指導担当指導主事 ・大阪府日本語指導スーパーバイザー				
相談内容	・児童生徒の日本語習得状況の見取りにあたって、DLA 及び「個別の指導計画」作成のための学習目標項目例をどのように活用すればよいか。 ・児童生徒の日本語習得状況を見取ったあと、どのような指導が考えられるか。 ・日本語学習を進めるにつれて、母語を忘れていく子どもに対しどのように支援すればよいか。				
派遣者からの指導助言内容	・流暢に話す、正確に文法を使える、連文や複文を活用できるというだけでなく、学習言語を話せているかがポイントである。学習言語はその言語の意味を説明できるようになって初めて「学習言語を使える」と判断すべきである。 ・支援のポイントとして、在籍学級との連携、読書指導、母語・母文化支援が鍵となる。取り出し指導は在籍学級の指導に直結するような学習が効果的である。その際リライト教材を用いた先行学習が有効である。 ・母語を忘れていくことで、家庭で保護者とのコミュニケーションが難しくなるという課題があるが、母語を忘れないようにと強要するのではなく、当該児童生徒が伝えたいことを日本語でも母語でも状況に応じてありのまま使うという姿を認めていくことが大切である。				
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	【参加者アンケートより】 ・今まで取り出しの授業は復習が中心だったが、在籍学級で日本語で少しずつでも授業参加できるよう予習型にしていきたい。 ・本日のワークを参考に、子どもの日本語習得状況の見取りは複数の教員で行うようにしたい。互いに見落とした点を補うことができ、正しい見取りにつながる。 ・できる限り早い段階で日本語と教科の統合学習を取り入れるようにしたい。 ・学習に対するモチベーションが保てない子どもが多いので、実物提示や成果物を作るなどにチャレンジしていきたい。				